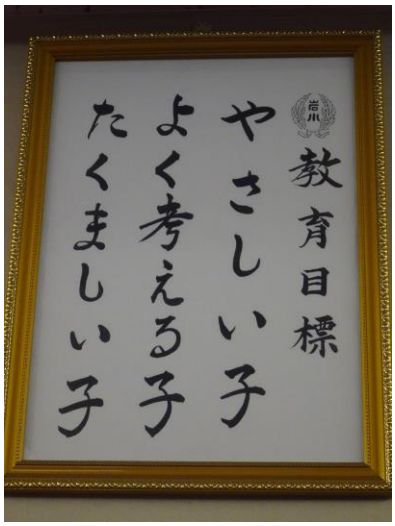
岩舟小学校　「小さな親切」運動

１．岩舟小の紹介



本校の児童は「やさしい子 よく考える子 たくましい子」という学校教育目標の下、明るく活発に生活している。本校の児童をみると、全体的に明るく活発で、和やかな雰囲気で学校生活を送っている。思いやりのある行動も多く、困っている友達に温かい言葉をかけたり、体調が悪そうにしている友達に「一緒に保健室に行こう」と優しく言葉をかけたりする場面が見られる。朝学校に来る児童にあいさつをすると「おはようございます。」と返す児童や、こちらから声をかける前に自分からあいさつができる児童がいる。一方で、こちらから声をかけても恥ずかしがってしまう児童、友達としゃべりながら通り過ぎる児童や小さい声で何を言っているかわからない児童も見られる。そこで、児童が主体的にあいさつできるよう、運営委員会が中心となって「あいさつ運動」に取り組んだ。

２．あいさつ運動のとりくみ

（１）実施日時

令和4年度　あいさつ運動計画

1学期	① 5月 9日(月)～ 5月13日(金)	
	② 6月 6日(月)～ 6月10日(金)	
	③ 7月 4日(月)～ 7月 8日(金)	※あいさつ強調週間
2学期	④ 9月 5日(月)～ 9月 9日(金)	
	⑤10月 3日(月)～10月 7日(金)	
	⑥11月 8日(火)～11月11日(金)	
	⑦12月 5日(月)～12月 9日(金)	※あいさつ強調週間
3学期	⑧ 1月16日(月)～ 1月20日(金)	
	⑨ 2月 6日(月)～ 2月10日(金)	※あいさつ強調週間

【実施日】

毎月第１週をあいさつ週間と決めた。日程を固定することで、「あいさつ＝第１週目」と理解しやすく、取り組みやすい。また、学期に一度あいさつ強調週間を実施した。

【実施期間】

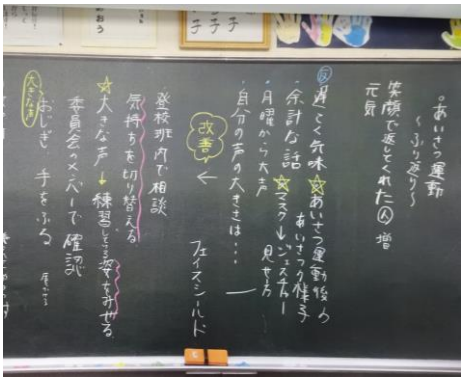
１週間。活動にメリハリをもたせるため、長い期間実施ではなく１週間と期間を短くした。その分、毎月行うことで、継続して続けている意識がもてるようにした。

（２）運営委員会の活動

①あいさつについての認識を共有する

・自分たちのあいさつの実態の中から、自分からあいさつができない理由を考えた。なかなか自分からあいさつできない気持ちに共感しつつも、あいさつはした方がいいという気持ちを高めさせた。

・あいさつについて体験談を出し合い、相手に喜ばれるあいさつをしたいという意識を高めさせた。どのようなあいさつをしたらよいか考え、実行するようにさせた。



②挨拶ボードの制作

運営委員一人一人が、明るいあいさつを呼びかけるメッセージボードを作成。子どもたち自らがメッセージ入りのオリジナルボードを作成することで、あいさつ運動に対する意欲を高め、積極的な運動推進につながるようにした。



（３）全校児童への取り組みへ

あいさつ週間の時に、運営委員会の子どもたちが校舎前の犬走りや児童玄関の前に立ち、登校してくる子どもたちと「おはようございます」と明るく大きな声であいさつを交わし迎えた。当初は、上級生にあいさつをされてからあいさつをしていた低学年の子どもたちなども、委員会の子どもたちが見えると大きな声であいさつをする姿が見られるようになった。



運営委員会だけの取り組みにならないよう、２学期からは担当学年を決め、運営委員会と一緒にあいさつ運動に取り組んだ。特に高学年児童は恥ずかしがってあいさつしない児童もしたが、担当を決めたことによりあいさつする児童が増えた。また、低・中学年の大きなあいさつで昇降口前がいっぱいになった。



月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月
担当学年	６年	５年	４年	３年	２年	１年

（４）地域ボランティアとの連携

校門前で地域の方によるあいさつ運動が行われている。この活動は、昨年度から行われており、地域の方も積極的に参加してくださっている。下校ボランティアで顔見知りの人の優しい笑顔とあいさつを楽しみにして登校し、子どもたちも「おはようございます」と元気にあいさつができた。また、児童も、地域の方と一緒にあいさつすることで、地域の方に見守られている自分に気付き、あいさつの意欲を高めることができた。



（５）あいさつ運動サイクルの確立

P　今月のスローガンの話合い（問題の発見・確認、解決方法の話合い・決定）

↓　目標はスローガンのようにわかりやすいものとした

D　あいさつ運動（課題解決の実施）

↓

C　振り返り（その日の課題と解決策の確認）

↓　全校児童の良かった点・改善点について意見を出し合った

A　放送で全校児童に伝える（全校児童へ周知）

話す内容、原稿は児童自身が考え、児童の言葉で伝えるようにした



３．あいさつ運動のまとめ

（１）成果

・運営委員会で話し合った考えを、活動に反映することができ、意欲を高めることができた。
・運営委員会だけでなく全校で取り組むことで、低学年の元気なあいさつが高学年に刺激を与えるなど、お互いに高め合うことができた。

（２）課題

・児童の自主性をさらに活かせるようにする必要がある。
・活動がマンネリ化してしまうため、取り組みの工夫改善が必要である。

